

1. 開催概要

開催施設名	会期	入場者数
東京都美術館	2015年9月19日～2015年12月13日	76万3512人
福岡市美術館	2015年12月22日～2016年2月21日	20万8994人
京都市美術館	2016年3月1日～2016年5月8日	30万2312人
新潟県立近代美術館	2016年6月4日～2016年8月21日	9万8253人

●開催概要

印象派を代表する画家クロード・モネが86歳で亡くなるまで手元に残し、マルモッタン美術館(後のマルモッタン・モネ美術館)に遺贈されたコレクションを中心に約90点を展示した。この中には、10代で描いたカリカチュア、子供たちの成長を記録した肖像画、旅先での風景画や生前公開されることのなかった晩年の作品、さらに交流のあったルノワールら同時代の画家の作品も含まれている。また印象派を早い時期から評価したド・ペリオ医師のコレクションから”印象派”の由来となった「印象、日の出」はじめ3作品が期間限定で特別出展された。日本での人気が高いためにモネの画業を辿ることができる展覧会とあり、特に東京では、記録的な動員となった。東京展会場で2015年11月27日～29日の3日間、来場者に実施したアンケートでは、80.6%の人が「とても満足している」もしくは「満足している」と回答。「モネの初期から晩年の作品が見られて良かった。カリカチュアは見る機会が少なくて楽しかった」、「時系列と人生を共に見られて興味深かった」「モネの生涯に沿って年表のように作品を見ることができ、充実した時間を過ごすことができた」と、画業を辿ることが出来る展示内容に肯定的評価が多く寄せられた。

2. 美術品補償制度の活用による国民的利益に関する取組結果

本制度活用による経費削減により、特に通常であれば借用、輸送において莫大な負担を伴う油彩作品、具体的には特別出展されたド・ペリオコレクションの「ヨーロッパ橋、サン＝ラザール駅」他、「睡蓮」「日本の橋」などの借用が可能となり、非常に充実した内容の展覧会を実現することが出来た。

【東京会場】

- ジュニアガイド 1万部制作 会場配布に加え、台東区内の全公立小学校、都内の一部公立小学校に送付
- 2015年9月19日～9月30日 高校生入場無料

【福岡会場】

- 2015年12月22日～12月27日 小中学生入場無料
- 県内外の高校生が美術の授業、美術部の活動の一環として見学できるよう団体割引設定

【京都会場】

- 会期中の土曜、日曜祝休日 京都市内の小中学生入場無料

【新潟会場】

- 中学生以下無料
- ジュニアガイド 1万部制作 会場配布
- 割引券制作 県内の全小・中・高に送付

3. 事故の有無(軽微な事故、ヒヤリハット事例も含む)

展示室内で写真撮影をした外国人観光客とそれを注意した日本人来場者の口論が東京で、1件あったが、それ以外はヒヤリハット事例含めて、事故はなし。

4. 安全配慮に関する特別の対応

点検・展示作業にあたっては、過労による人的事故を防止するため、余裕を持ったスケジュールで実施した。境界の設置にあたっては、所蔵館の監修者、日本側の担当学芸員とともに、手が触れない距離であること、また転倒の危険性がないことを確認しながら設置。また、特に評価額の高い「ヨーロッパ橋、サン＝ラザール駅」「テュイルリー公園」、また国家補償の対象とはならなかったが「印象、日の出」については、作品への過度な接近を避けるため、通常の結果ではなく、半円形のステージを設置。また、混雑回避策として、立ち止まって鑑賞出来るレーンと立ち止まらず鑑賞するレーンを設けた。

5. 紹介事例・今後の改善点等

「モネ展」と名のつくものは、日本ではこれまでも多く開催されているが、今回は、最期までモネが手元に残した作品を中心に構成された展覧会で、モネ自身の作品が7割を占めた。それ以外の作家の作品についても、単なる同時代の作品ではなく、モネが特別な思い入れを持ち、最期まで手元に残した作品で、「究極のモネ展」というキャッチコピーに恥じない内容であったと自負している。

「印象、日の出」の出展期間が、貸出館の都合で限定的となってしまったが、ド・ペリオコレクションの中から「テュイルリー公園」「ヨーロッパ橋、サン＝ラザール駅」という2作品を交代で出展することで、2回以上来場された方も多かった。また、各会場とも主催者の中にテレビ局が入ったことで、本展をテーマとした番組を数多く放送した。これにより、従来、印象派の作品に興味のない人たちにも展覧会の存在が認知され、多くの人に貴重な作品群を鑑賞して頂くことが出来た。

特に東京会場では、事前に混雑対策をしていたが、実際には主催者の想定を大きく上回る結果となった会場では、日本語と英語の展示パネルを掲出したが、中国を中心にアジア系の来場者が多く、今後は中国語での作品情報、解説パネルの掲出を検討すべき。ただ、英語、仏語等と比べて、美術専門の中国語の翻訳者が少なく、翻訳を依頼するにも依頼する相手が見つかりにくいのが現状だと感じた。

6. 展覧会の収支決算書

主催者名

東京都美術館、日本テレビ放送網、福岡市美術館、福岡放送、京都市美術館、読売テレビ放送、新潟県立近代美術館、TeNYテレビ新潟、モネ展新潟実行委員会

●収入

内 訳	決算額 (当初予算額)
展覧会収入・その他の収入	97,900 万円 (74,140 万円)
共催者負担	84,665 万円 (84,070 万円)
収入総額	182,565 万円 (158,210 万円)

●支出

内 訳	決算額 (当初予算額)
企画準備等基本経費	101,051 万円 (102,798 万円)
設営・運営等会場関係経費	83,187 万円 (55,412 万円)
支出総額	184,238 万円 (158,210 万円)